

巻 頭 言



群馬県知事 山本 一太

「多文化共生・共創社会」の実現と 「地域外交」の推進

新型コロナウイルス感染症は、全世界に想像を超えるパラダイムチェンジをもたらしました。この「ニューノーマル社会」への転換という不可逆的な流れを踏まえ、群馬県では新・総合計画ビジョン「群馬から世界に発信するニューノーマル～誰一人取り残さない自立分散型社会の実現～」を策定しました。

この計画が目指す2040年の群馬県の姿は「年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実感できる自立分散型の社会」を構築するということです。

この理念に基づき、群馬県では多文化共生に向けた取組を行っています。令和3年4月には全国で初めて「多文化共創」を明文化した「多文化共生・共創推進条例」を施行しました。群馬県には6万人を超える外国人が在住（人口比では全国3位）しています。条例では、多様な文化と価値観を持つ外国人県民を単なる労働力としてではなく、地域経済及び地域の活力をともに創る「仲間」として迎え入れ、「仲間」とともに群馬の魅力向上、持続的な発展、そして誰もが幸福を感じられる社会の実現を目指しています。

また「多文化共創」を実践する事業者の取組をロールモデルとして認証する「群馬県多文化共創カンパニー認証制度」を創設し、令和3年度は5事業者を認証しました。今後も優れた取組を行う事業者を認証するとともに、外国人材の活躍の様子や事業者の支援の状況等をYouTubeやSNSを通じて国内外へ広く情報発信していきます。

県の海外展開においては、従来の枠にとらわれない、直接、海外と繋がる「地域外交の推進」に力を入れています。地域外交においては、「ハイレベルな人脈構築」、「優れたコンテンツの発信」、「世界の先進技術を掴む」という3つの基本方針をキーワードにターゲット国・地域を定めて重点的に取り組んでいます。新型コロナウイルスの感染状況を鑑みながらにはなりますが、知事自ら積極的に海外に渡り、外国政府要人とのトップ外交を通じて、世界に開かれ、交わり、求められる、選ばれる群馬を目指していきます。

複雑化を増す世界情勢の中で、地方の国際施策もより柔軟かつ戦略的な思考が不可欠となっています。群馬県では、「多文化共生・共創社会」の実現と世界と直接、繋がる「新しい地域外交」を展開し、県経済の発展や県民幸福度の向上に繋げてまいります。